

令和5年度美術 I シラバス

担当教諭 宮城 明美

担当学年 2・3年 定時1年

【教科目標】 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次ぎのとうり育成する事を目指す。(1) 知識及び技能に関する目標 (2) 思考力、判断力、表現力等に関する目標 (3) 学びに向かう力、人間性等に関する目標

学期	月	時数	美術 I	単位数 2	対象学年 全日 2・3 定時1年
一 学 期	4. 5	4	題材名		指導内容
		4	線や面で描こう。 人物を描く。		
	6. 7	1 6	立体表現の広がり。		画用紙の上に、何本も「線」を引いているうちに、「面」に変化する。自分が感じる線の集まりから面が変わる瞬間を感じ取る。 現代アートの作家の作品から、彼らが、社会や自分自身に立てた問いは、何だったのかを考える。
二 学 期	7. 8	5	ポスターで考える。		地域や学校の中に提示する事で、道行く人の足を止めたり、振り向かせたりするために視覚表現による作品を考える。
	9	4	記憶に残る形と色。		自然や自己、生活などを見つめ感じ取った事や考えた事、夢や想像などから主題を生成する事ができる
	10.11	1 4	ねんどで造形。		創造的な表現の構想を練り、材料や用具の特性を生かすことができる。
三 学 期	1 1	4	身近な風景を描く。		造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を考える
	1 2	6	感覚と表現（色彩構成）		デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想をねる事ができる。
	1	6	仕組みをデザインする。		デザインの機能や効果を考え、特性について考える。
	2	4	アニメーションの仕組み		絵作りで意図を伝える。(四コマ)
	3	2	怪奇な生き物たち。		目に見えないものを絵画で視覚的に感じさせる表現を考える事ができる。

評価規準 知 「知識・技能」の知識に関する評価規準

技 「知識・技能」の技能に関する評価規準

発 「思考・判断・表現」の発送や構想に関する評価規準